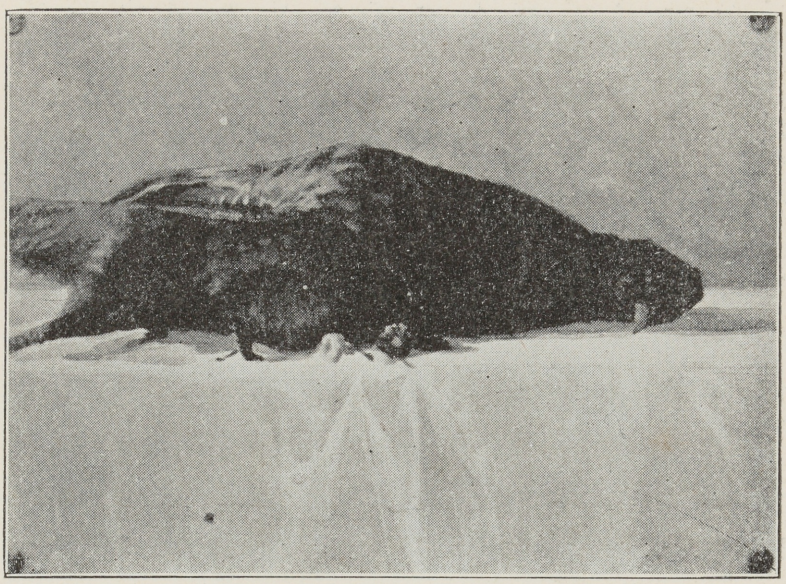
せしめ、又た物の性格と云ふものを教へるのである、同じ樹を五十遍も寫生して漸く其樹の性格が分るでせう、どう云ふ風に生へて居るとか、どんなに曲りくねつて居るとか、風當の爲にどうなつたとか、之れらは寫生してゐる間に樹が君に言葉を交はし、其來歷を談すのです、併し通行人は知らずに通つて、つまらぬ樹だと云ふ、成程材木にしたらば五圓か十圓のものだらう、併し君に取つては猶遙かに價値がある、否實に錢では買へないのです、隨分世の中には、金さへあれば何んでも買へないものは無いと思つて居る人も多い、併しそう云ふ人は、最上等の品物は君が取ることさへ出來れば、皆君のものであると云ふことを知らない、併し若し君が之を取ることが出來ないようならば、決して寫生家なぞにならうとは思ひたまうな、



長野講習會成績（二）

アルフレッド、イースト、

○意味の分りにくい處あらば遠慮なく聞いて下さい、委しく説明致します、

欽

支那人と色彩

○紅色　吉、賀、祝等の場合に好んで用ふ、特に結婚の際は專ら此色を用ふ。

○黃色　帝室用として、皇室以外は滿洲僧侶及道者の外は使用を許さず。

○青色黑　此兩樣は上下差別なく用ふ。

○藍色　一般に廣く用ふ。

○紫色　官吏紳商等は藍色と併せ其衣服に用ふ。

○灰色　大商人は藍と併せ用ふ、小商人、一般の身分なきものは共に此色を用ふ。

此外

○湖月色（淺黃）。洋妃（とき色）。葵綠　紳月等好んで之を用ふ。

○石青（紺）。羔綠（濃綠）。桃紅（桃色）。荷灰（銀鼠）等も好む。

○白色　不祝儀の色彩にして、獨り祭葬の場合に用ふ。故に家具其他にても如何なる木質のものも必ず色附けするを常とす云々。

右は重に北淸貿易上の注意として、大平洋に揭載せられしものなれど、一寸面白ければ拔萃したり。